

株式会社八森電子デバイス

ブームの「水素水」で 飛躍のチャンスをつかむ

「水素分」ブームに乗って、
生成器を開発。
官民一体で、業界初の製品が誕生。

水素水をどこでも手軽に簡単に

タレント、モデル、スポーツ選手等が、健康や美容、アンチエイジングのために愛飲していることで話題の「水素水」。

電子機器や医療機器を製造する八森電子デバイスは、4年前から水素水生成器の製造に着手。当センターの「あきた企業応援ファンド事業」を利用し、業界初となる「非接触給電方式」を採用した携帯型水素水生成器「サン・ポータ」を開発した。

直径78mm×高さ235mmと持ち運び可能なサイズで重さは400g。水を注ぎ電源を入れると約1分で水素水ができる。塩素除去フィルターを装備し、カルキ臭が苦手な方にも対応できるようにした。

水素水は空気に触れたり輸送時の揺れで水素が減少するが、「サン・ポータ」ならば作りたてで高濃度の水素水がいつでも飲める。

旧製品から課題をつかむ

同社は、東京に本社を置く電機部品メーカー・ミツミ電機の秋田事業所（潟上市飯田川）の協力工場として1985年に創業。以来、下請企業として生き残ってきたが「大手に依存するばかりでは、いずれ立ち行かなくなる」と、自社製品開発の機会を探っていた。そして4年前、新たな挑戦として始めたのが携帯型水素水生成器の製



造だった。

旧製品は、送電側と受電側の電極を物理的に接触させることで通電を行っていた。しかし、電極部分の金属に水が付着すると、腐食による接触不良で通電不能を起こすクレームが発生した。また、電極部がむき出しの構造であったため、漏電、感電が生ずる危険もあった。結局、旧製品は製造中止となり「今後の柱にと考えていただけに無念だった」と加賀谷貢常務は振り返る。

性能・安全性が飛躍的に向上

その後も開発意欲はあったものの費用がネックになっていた。そんな時、「企業応援ファンド」の話聞いた。また、同じ頃、秋田県産業技術センターが保有する「非接触給電技術」を知る。これを機に、旧製品を改良し、新製品として製造・販売する事業を立ち上げた。

新製品は「非接触給電方式」の採用により、接触不良の問題を排除。防水性が確保され、安全性、耐久性が飛躍的に向上した。加賀谷常務は「産業技術センターとの共同開発による『官民一体』の良いモデルができたと思う。今後の課題は、販路拡大。秋田発の製品として売り込みに力を入れたい」と抱負を語る。水素水ブームを追い風に、新たな一歩を踏み出した。①



「ファンドが背中を押してくれたおかげで挑戦できた」と加賀谷常務。



水素発生装置製造の様子。人の手で1つ1つパーツを製造し、組み立てる。



「サン・ポータ」は、パーツごとにばらして洗浄可能。内部を清潔に保つことができる。

株式会社 八森電子デバイス

秋田県山本郡八峰町八森字家の上166-2

TEL.0185-77-3383

<http://www.shirakami.or.jp/~device-2>